

「速報性のある包括的な消費関連指標の在り方に関する研究会」 報告書構成（素案）

はじめに

I 速報性のある包括的な消費関連指標の開発に向けた背景

- ※ 消費動向をめぐる社会経済事情や各種議論、各種消費関連指標、家計消費と企業消費、ビッグデータを活用した民間先進事例等

II ビッグデータを活用した消費変動の推計

- 1 ビッグデータ活用の有益性と隘路
 - (1) ビッグデータ活用の有益性
 - (2) ビッグデータ活用の隘路
- 2 ビッグデータを活用した新たな消費指標の作成
 - (1) バイアス補正・データ融合
 - (2) マクロ消費変動の推計モデル
 - (3) 産学官連携のビッグデータ実用化の枠組み

III 世帯の消費変動を包括的に把握可能な指標作成

- 1 単身世帯を対象とする新たな調査の導入
 - (1) 単身世帯の消費動向把握の必要性
 - (2) 家計消費単身モニター調査
- 2 新指標の設計
 - (1) 擬似的標本拡大による精度向上（家計消費指数の吸収）
 - (2) 要因調整系列の作成（消費水準指数の吸収）
 - (3) 季節調整値の算出及び名目・実質系列の作成
 - (4) TC系列又はC系列の抽出
- 3 より精度の高い指標の作成と利用の浸透に向けて
 - (1) 民間データを使った補強・補完
 - (2) 公表時期

IV 家計調査の改善・刷新

- (1) 家計の個別化（個計化）対応
- (2) 家計簿自動入力

V ロードマップ